

- 問1 弥生時代の日本における生活や道具について述べた次の文のうち、歴史的事実として正しいものはどれですか。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| 1. 稲作が本格的に広まり、収穫のために石包丁が利用された | 2. ナウマンゾウなどの大型の動物を捕らえて主な食料としていた | 3. 大陸から渡来人によって仏教が伝えられ、寺院が建立され始めた | 4. 表面に縄目の文様がついた土器が、煮炊きや貯蔵に広く使われた |
|-------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
- 問2 3世紀の中国の歴史書『魏志』倭人伝において、女王卑弥呼が統治していたとされる、当時の日本列島の呼称として適切なものはどれですか。 (2017年 長崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|--------|---------|-------|
| 1. 日本 | 2. 高天原 | 3. 邪馬台国 | 4. 倭国 |
|-------|--------|---------|-------|
- 問3 稲作の技術が広まったことで、土地や水をめぐる争いが起き、周辺のムラを従えて「クニ」をつくる者が現れた弥生時代の社会において、青銅器はどのような役割を担ったと考えられますか。 (2019年 徳島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---------------------------------------|--|--|
| 1. 王や指導者がその権威を示すため、あるいは祭祀を行うための象徴として用いられた | 2. 大陸との交易において、日本の特産品として輸出される主要な品目となった | 3. 大規模な水田開発を行う際、土を掘り起こすための主要な農具として普及した | 4. 呪術的な力を持つと信じられ、女性の姿をかたどった土偶とともに魔除けとして埋められた |
|---|---------------------------------------|--|--|
- 問4 3世紀、邪馬台国の女王である卑弥呼が、中国の魏に使いを送り「朝貢」を行った政治的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 中国の大国の権威を背景に、国内における自らの支配の正当性や地位を高めるため | 2. 中国の進んだ稲作技術を独占し、食料生産を安定させることで人口を増やすため | 3. 中国の優れた文字（漢字）を学び、律令制度に基づいた中央集権国家をいち早く形成するため | 4. 中国から仏教を公式に導入することで、宗教の力を用いて争いの絶えない国内を鎮めるため |
|--|---|---|--|
- 問5 1世紀半ば、日本の小国の一つであった奴国の王が、中国の王朝である後漢へ使者を送った時期の社会状況として、最も適切なものはどれですか。 (2022年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 大陸から伝わった稲作や金属器の使用が広まり、食料の蓄えや土地をめぐる集落間の争いが起こるようになった。 | 2. 狩猟や採集を生活の中心とし、ナウマンゾウなどの大型動物を追って移動を繰り返す生活を送っていた。 | 3. 巨大な前方後円墳が築造されるようになり、その周囲には死者を供養するための埴輪が並べられた。 | 4. 仏教による国家の安定を図るため、聖武天皇の命によって全国各地に国分寺や国分尼寺が建立された。 |
|--|--|--|---|
- 問6 「漢書」地理志や「魏志」倭人伝などの中国の歴史書には、倭の女王である卑弥呼や、それ以前の倭の小国の王が、中国の皇帝に使者を送ったことが記されています。このような古代の日中外交において、日本の支配者が中国の皇帝から称号を授けようとした主な目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2024年 宮崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 中国国内でのキリスト教の布教を許可してもらい、宗教的な指導者としての地位を確立するため。 | 2. 中国の皇帝と対等な立場で軍事同盟を結び、高句麗や新羅を共同で攻撃するための約束を取り付けるため。 | 3. 中国の皇帝から直接的に領土を譲り受け、日本列島を中国の行政区画の一部として統治するため。 | 4. 中国の強力な武力や権威を背景に、日本国内の他の勢力に対して自らの支配の正当性を示すため。 |
|---|---|---|---|
- 問7 邪馬台国の女王卑弥呼が、当時の中国の王朝である魏に使いを送った背景やその後の状況を説明した文として、最も適切なものを選びなさい。 (2023年 山形県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 秦の始皇帝に対して不老不死の薬を献上することで、国内の争いを鎮めるための軍事支援を求めた。 | 2. 倭の奴国の王として、後漢の皇帝から金印を授かり、九州地方の交易の利権を独占しようとした。 | 3. 大陸の優れた仏教文化を直接取り入れるために、公式な使節として小野妹子を魏の都へ派遣した。 | 4. 魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金印を授かることで、国内の小国に対する自らの権威を高めようとした。 |
|--|---|---|--|
- 問8 弥生時代の遺跡からは、稲作に関連する様々な道具や施設が発見されています。収穫した稲の穂首を摘み取るために用いられた石器と、穀物を湿気やネズミなどの害獣から守るために床を高くした貯蔵用の施設の組み合わせとして、正しいものはどれですか。 (2017年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------|---------------|--------------|-------------|
| 1. 石包丁と竪穴住居 | 2. 銅剣・銅矛と高床倉庫 | 3. 和同開珎と高床倉庫 | 4. 石包丁と高床倉庫 |
|-------------|---------------|--------------|-------------|
- 問9 紀元前4世紀頃から稲作が普及し始めた弥生時代において、近畿地方を中心に多く発見されている、釣鐘のような形をした代表的な青銅器の名称は何ですか。 (2020年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|----------|-------|-------|
| 1. 銅鐸 | 2. 前方後円墳 | 3. 勾玉 | 4. 埴輪 |
|-------|----------|-------|-------|
- 問10 紀元前後の日本（倭）が100余りの小国に分かれていた時代、現在の福岡県付近にあった「奴国」の王が使者を派遣し、皇帝から「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けられたとされる中国の王朝を選びなさい。 (2016年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|------|------|------|------|
| 1. 唐 | 2. 漢 | 3. 宋 | 4. 元 |
|------|------|------|------|
- 問11 日本列島と朝鮮半島の位置関係を示した地図において、九州地方の北部（現在の佐賀県付近）に位置し、大陸との交流や当時の防御の様子を今に伝える弥生時代の代表的な遺跡はどれか、選びなさい。 (2020年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|-----------|-----------|
| 1. 岩宿遺跡 | 2. 登呂遺跡 | 3. 三内丸山遺跡 | 4. 吉野ヶ里遺跡 |
|---------|---------|-----------|-----------|
- 問12 歴史上の生産活動の発展において、農具の素材が変化したことは大きな意味を持ちます。鉄製の刃先を用いた農具への変化について説明したもものとして、正しい記述を選んでください。 (2016年 富山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--------------------------------------|
| 1. 鉄の刃先が導入された後も、土を耕す作業には一貫して木製のみの道具が使われ続けた | 2. 鉄製の農具は重すぎて実用的ではなかったため、主に祭祀用の道具として使われた | 3. 鉄は加工が困難であったため、刃先も含めてすべて石で代用する手法が普及した | 4. 木製の土台に鉄の刃先を組み合わせた工夫により、耕作の効率が向上した |
|--|--|---|--------------------------------------|
- 問13 縄文時代に続く弥生時代に使われた土器は、それ以前の縄文土器と比べて薄くて硬く、赤褐色をしていることが多いという特徴があります。この土器の名称として正しいものはどれか。 (2016年 鳥取県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|---------|---------|--------|
| 1. 須恵器 | 2. 弥生土器 | 3. 黒色土器 | 4. 土師器 |
|--------|---------|---------|--------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 稲作が本格的に広まり、収穫のために石包丁が利用された	弥生時代は、大陸から伝わった稲作や金属器の使用が始まった時代です。食料確保の手段が狩猟・採集から農耕へと大きく変化し、稲の収穫には石包丁が使われました。大型動物の狩猟は旧石器時代、縄文土器の使用は縄文時代、仏教の伝来は古墳時代から飛鳥時代にかけての出来事です。
問2	答え 4 倭国	中国の歴史書では、当時の日本列島やそこに住む人々を「倭」と呼び、その国々を指して「倭国」と表現しました。卑弥呼が都を置いた具体的な場所は「邪馬台国」と記されていますが、日本列島の勢力を総称する当時の呼び名としては「倭国」が用いられています。
問3	答え 1 王や指導者がその権威を示すため、あるいは祭祀を行うための象徴として用いられた	稲作の伝来により生産力が高まると、土地や水をめぐる対立から社会に階級が生じ、各地に「クニ」が成立しました。地域の指導者は、集団の結束を固めるための祭祀（まつり）を主導し、その際に大陸由来の希少な技術で作られた青銅器を権威の象徴として利用しました。土偶は縄文時代の特徴的な遺物であり、青銅器は農具としては脆いため実用的ではありませんでした。
問4	答え 1 中国の大国の権威を背景に、国内における自らの支配の正当性や地位を高めるため	当時の日本（倭）は多くの小国が争っている状態でしたが、卑弥呼は邪馬台国を中心とする連合をまとめ、中国の強大な王朝である魏に朝貢しました。魏の皇帝から「親魏倭王」という称号や金印を授かることで、中国という後ろ盾があることを他の国々に見せつけ、国内の統治を有利に進めようとする外交上の狙いがありました。
問5	答え 1 大陸から伝わった稲作や金属器の使用が広まり、食料の蓄えや土地をめぐる集落間の争いが起こるようになった。	紀元前後の弥生時代には、大陸から稲作技術や金属器（青銅器・鉄器）が伝来し、生産力が向上しました。これに伴い、余剰生産物の蓄えや水田に適した土地をめぐる集落同士の争いが発生し、各地に小国が形成されました。奴国の王が後漢の光武帝に使者を送り「漢委奴国王」の金印を授かったのは、こうした国内の勢力争いの中で中国の王朝を後ろ盾にしようとする意図があったと考えられています。
問6	答え 4 中国の強力な武力や権威を背景に、日本国内の他の勢力に対して自らの支配の正当性を示すため。	当時の日本（倭）は多くの小国が並立しており、各勢力の首長は自らの支配力を誇示し、国内を安定させる必要がありました。先進文化を持つ中国（漢や魏など）の皇帝から「親魏倭王」のような称号や金印を授かることは、周辺勢力に対して「自分こそが正当な統治者である」と主張するための強力な裏付けとなりました。
問7	答え 4 魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金印を授かることで、国内の小国に対する自らの権威を高めようとした。	当時の倭は多くの小国に分かれて争っていましたが、卑弥呼が強力な魏の皇帝から「倭の王」として認められ、称号や贈り物を授かることは、周辺の国々に対して自らの政治的正当性を示す外交的な手段でした。この記録が残る『魏志倭人伝』によって、当時の日本に存在した邪馬台国の統治体制や社会の様子が現代に伝えられています。
問8	答え 4 石包丁と高床倉庫	弥生時代に始まった稲作では、磨製石器の一種である石包丁を用いて、稲の穂の部分だけを摘み取る「穂首刈り」が行われていました。また、収穫した穀物を安全に保管するため、風通しを良くして湿気を防ぎ、柱に「ネズミ返し」という板を取り付けてネズミの侵入を防ぐ工夫がなされた高床倉庫が作られました。
問9	答え 1 銅鐸	銅鐸は弥生時代を代表する青銅器の一つです。もともとは音を鳴らす楽器のような道具であったと考えられていますが、時代とともに大型化し、表面に当時の生活（狩猟や稲作）を描いた絵が刻まれるなど、地域の祭りや儀式でシンボルとして使われる道具へと変化しました。
問10	答え 2 漢	紀元前1世紀ごろ、倭（日本）は100余りの国に分かれていました。1世紀半ば（紀元57年）には、その中の一つである奴国の王が中国の王朝である漢（後漢）に使者を送り、皇帝（光武帝）から金印を授かりました。この事実は中国の歴史書である『後漢書』東夷伝に記録されています。
問11	答え 4 吉野ヶ里遺跡	弥生時代に現在の佐賀県に築かれた、大規模な環濠集落（かんごうしゅうらく）の跡です。物見やぐらや二重の濠、大規模な墳丘墓などが発見されており、クニの成立過程や大陸との交流を研究する上で極めて重要な遺跡です。静岡県登呂遺跡や青森県三内丸山遺跡とは所在地や時代、特徴が異なります。
問12	答え 4 木製の土台に鉄の刃先を組み合わせる工夫により、耕作の効率が向上した	古代の農具の改良に関する資料などでは、木製農具の先端部分を鉄で補強する記述が見られます。鉄は木材よりも硬く鋭いため、これを刃先として利用することで土地を効率よく耕し、生産性を高めることができました。こうした技術の進歩が、のちの国力の増大や社会構造の変化を支える基盤となりました。
問13	答え 2 弥生土器	弥生土器は、紀元前4世紀頃から始まった弥生時代に使用された土器です。縄文土器が厚手で、比較的低い温度で焼かれたのに対し、弥生土器はより高い温度で焼かれることで、実用性に優れた薄くて丈夫な作りになっています。